

第4章 課題解決に向けたプロジェクト

第3章の課題整理と対応策に基づき、課題を解決するための具体的な施策をプロジェクトとして位置付け、その概要を列挙した。

これらのプロジェクトは委員から提案されたものである。

1. プロジェクトとは

課題整理と対応策に対するプロジェクトを設定した。また、各プロジェクトを実施するための事業を個別プロジェクトとして記載し、プロジェクトの実施による課題解決を目指す。

2. プロジェクト内容

(1) 利用促進策

利用しやすい駅の整備

(ア) バリアフリー化

駅及び駅周辺を利用しやすくするため、バリアフリー化を行い、特に高齢者の交通手段として利用促進に努める。また、上越市は「上越市人にやさしいまちづくり条例」を制定しており、高齢者、障害者等をはじめとするすべての市民が安全かつ快適に生活できるよう、あらゆる障壁のない社会環境の整備を図ることとなっている。

駅についてもまちなかの人が集う施設として障壁を解消することが必要であり、特に高田駅を含む高田地区においては、「歩いて暮らせる街づくり」モデル地区にも指定されていることから、全体の施策の中でのバリアフリー化が求められる。

具体的には、段差解消や誘導ブロックの設置に加え、冬期間に歩行者が駅に行きやすくするよう、除・排雪に努める。

さらに、将来は中心市街地を有する直江津駅及び高田駅においてバリアフリーに特化し、電動車イスの貸し出し場所を設置するなど駅へのアクセスにとどまらず、中心市街地内においても円滑な移動確保策を検討する。

なお、上越市では、上越市バリアフリー構想を平成15年度策定し、高田駅を中心にバリアフリーを平成22年度までに整備する予定にしている。

課題解決（対応策）名	関係者 ¹					期間 ²		
利用促進策	国	県	市	鉄道事業者	市	短期	中期	長期
プロジェクト名			町		民			
利用しやすい駅の整備			村					
その1								
バリアフリー化	○		○	○		○		

¹ プロジェクト実施関係者に○

² 短期：平成16年度から実施、中期：平成25年頃の経営分離までに実施、長期：経営分離後の平成25年以降実施。

(イ) アクセスルートの整備

駅へ行きやすくするため、高田駅西口及び黒井駅南口の整備を行うとともに、各駅の特徴を生かした朝市を実施する。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
利用しやすい駅の整備								
その3								
アクセスルートの整備			○	○	○	○		

利用しやすい電車

(ア) ダイヤ改正

市民ニーズに基づいた列車運行を行うため、ダイヤを改正し、利用しやすい環境づくりを目指す。

- スピードアップ化

長野方面への行くために、市民の4分の1が鉄道を利用しており、更に利用を延ばすため、快速を運行させる。

他の方面も地域住民の意向に応じたスピードアップを図る。

- 増発

電車を増発することにより、朝夕の混雑緩和、利用したい時に電車が走っているダイヤにする。

- 乗る人に不便を感じさせないダイヤ

【終電車を遅く】

長岡・柏崎方面の終電車を遅くし、鉄道ネットワークを生かす。

【列車の接続時間を短縮】

乗換えが発生する中・長距離鉄道を利用する人のため、接続時間を短縮する。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市	鉄道事業者	市	短	中	長
プロジェクト名			町					
利用しやすい電車			村		民	期	期	期
その1								
ダイヤ改正			○	○	○	○		

(イ) 車両の改善

利用しやすい電車にするため、市民のニーズに基づいた車両の導入を図り、利用しやすい電車を目指す。

具体的には、車イスやベビーカーなど乗り入れしやすいようホームと電車の段差解消などバリアフリー対策を行う。

また、高齢者、若者、女性、小さい子ども連れ向けの専用車両の導入により、だれもが使いやすい鉄道を実現する。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
利用しやすい電車								
その2								
車両の改善			○	○	○	○		

(ウ) 運賃の見直し

割高感がある区間の運賃を見直し、並行在来線へ移行後に運賃改定をしなければならない場合であっても、値上げを最小限に押さえ、利用しやすい電車を目指す。

アンケートによれば、運賃の値下げを希望する声が多い。とりわけ学生の希望が多かった。企画切符の販売や定期利用者向けの割引乗車券を検討する。また、少子化対策の一環としてフランスでは、家族割引切符が発行されているように、家族割引切符を導入する。

経営分離後の並行在来線の運賃は、早期予約割引といった航空券のように運賃の弾力化を行い、利用率を上げるとにより収入を増やす。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
利用しやすい電車								
その3								
運賃の見直し			○	○	○	○		

(エ) 貨物輸送の利用促進

現在、トラック輸送から鉄道や船舶の輸送へのモーダルシフト³が推進されている。並行在来線区間は、定期貨物輸送が運行しており、とりわけ、北陸本線は日本海縦貫線の一部を担っており、今後も鉄道貨物輸送を確保するために利用促進を図り、利用しやすい電車を目指す。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
利用しやすい電車								
その他								
貨物輸送の利用促進			○	○	○			○

³ モーダルシフト：幹線における貨物輸送をトラックからより低公害で効率的な大量輸送機関である内航海運や鉄道へ転換していくこと。

他の輸送機関との連携（車社会との共存）

（ア）バスとの連携

自家用車を持たない人や市外からの訪問者が市内を公共交通機関による移動可能とするため、以下の対策を行うことにより鉄道とバスとの連携を図る。

なお、連携させるためには、市の担当課である総務課（バス）、企画課（鉄道）、都市計画課（駅前整備）、観光課（観光案内）が情報を共有し、鉄道事業者やバス事業者とともに公共交通全体を体系的に運行させる計画を策定しなければならない。

【駅のバスターミナルの整備】

現在、駅から離れているバス停を近接させ、鉄道駅を中心にバスを運行させる。

【鉄道・バスのダイヤの連携（乗換え円滑化）】

新幹線を含め鉄道とバスのダイヤを連動させ、自家用車を持たない人が公共交通による移動可能範囲を拡大するとともに利便性を向上させる。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
他の輸送機関との連携								
その1								
バスとの連携			○	○		○		

（その他、バス事業者）

（イ）駐車場整備

市民アンケートによれば、自宅から駅に「タクシーまたは他人が運転する自家用車」で駅に行く人が42.5%、自分が運転する自家用車で行く人が12.5%おり、周辺に駐車場の整備を行うことにより、自宅から駅への自家用車によるアクセスを容易にする。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
他の輸送機関との連携								
その2								
駐車場整備			○	○	○			○

(ウ) 駐輪場整備

市民アンケートによれば、自宅から駅まで行くのに自転車で
行く人が、5.3%、学生では3割を超えている。各駅に駐輪場を
整備し、駅への自転車でのアクセスを容易にする。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
他の輸送機関との連携								
その他								
駐輪場整備			○	○	○			○

鉄道をPR

(ア) 利用促進イベント

市民が参加できる電車・駅を使ったイベントを実施することにより鉄道をPRする。

【ノーカーダーの実施】

まず鉄道に乗ってもらうキャンペーンとしてノーカーダーを実施する。

ノーカーダーにおける鉄道利用者には動機としての特典をつける。

【鉄道・バスツアー】

大人向けに公共交通である鉄道とバスを利用したツアーを実施し、参加者に公共交通による旅行の素晴らしさを知ってもらう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
鉄道をPR								
その1								
利用促進イベント			○	○	○	○		

(イ) 鉄道の良さを知ってもらうキャンペーン

普段鉄道を利用していない人は、鉄道の良さや利点を知らないため、鉄道の交通手段としての特性や副次的機能を市民に知ってもらい、鉄道をPRする。

【健康面から休日鉄道利用を勧める】

休日に自宅から駅まで歩いてきてもらい、電車により移動してもらうキャンペーンを実施する。

また、駅からハイキングコースや散策コースを設定し、健康面から鉄道利用を勧める。

【鉄道の特性（確実性、定時性）をアピール】

電車による移動時間の確実性や大量の輸送人員など鉄道の良さを知ってもらう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
利用促進策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
鉄道をPR								
その2								
鉄道の良さを知ってもらうキャンペーン			○	○	○	○		

(2) 活用策

鉄道の交通手段としての機能以外（付加価値）の利点を生かすことにより、市民の交通手段を確保する。

地方鉄道は、地域の基礎的な社会的インフラであり、地域が一丸となって支える視点が重要となる。

駅を中心としたまちづくり

アンケートによれば、日用品の買物ができる商店や住宅を駅周辺に配置を希望する市民が42.8%、市役所、学校、図書館などの公共施設の配置21.2%と市民が駅を中心にしたまちづくりの意向があった。

また、上越市高田地区は「歩いて暮らせる街づくり」のモデル地区に指定されており、駅はまちの中核であり、駅を中心に歩いて暮らせる街づくりが必要である。

さらに、駅は“回遊できるまち”の起点・終点としてまちの拠点の中心にあり、駅を中心としたまちづくりにより、駅とまちの活性化を有機的かつ相乗的に結びつけなければならない。

(ア) 観光面

鉄道を利用して上越に訪れる観光客を対象とし、観光振興のため駅及び鉄道を活用し、駅を中心としたまちづくりを図る。

- 鉄道駅（公共交通機関）を意識した観光開発（まちづくり）
自家用車やバスによる観光開発を行っているが、鉄道駅近隣の観光開発のため、鉄道を活用する。
- 駅から観光施設を循環するバスの運行
鉄道で訪れた人がバスで代表的な観光地を訪れることができるようにする。
- 駅からの散歩コースのマップづくり
駅近隣の観光地を徒歩により巡回できる散歩コースマップを作り、鉄道で上越に訪れ、健康になってもらうために、鉄道を活用する。
- 各施設までの案内表示の設置
上越市への訪問者や地元住民が鉄道駅を降りて目的地に行ける案内表示を設置する。また、直江津駅及び高田駅にある観光案内所の案内表示及び上越観光コンベンション協会が実施している観光登録店⁴に案内できるようにする。
- 上越市百選選定
上越市百選を選定し、ニーズが多様化した観光客や一度上越に来てもらった人に再度訪問してもらう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
活用策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
駅を中心としたまちづくり								
その1								
観光			○	○	○	○		

⁴ 観光登録店：観光情報を提供する民間の協力店舗

(イ) 環境面

上越市の二酸化炭素の排出量は年々増加しているが、鉄道は自家用車に比較して二酸化炭素の排出量が約9分の1⁵と環境にやさしく、二酸化炭素の排出量削減のため鉄道を利用してもらおう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
活用策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
駅を中心としたまちづくり								
その2								
環境			○		○	○		

(ウ) 健康面

自家用車利用はドアツードアで歩くことなく、目的地に着くが、鉄道を利用することにより、自宅から駅もしくは駅から目的地まで歩いてもらうことにより健康づくりをしてもらう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
活用策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
駅を中心としたまちづくり								
その3								
健康			○		○	○		

⁵ 二酸化炭素の排出量：1人を1km運ぶのに排出する二酸化炭素の比較（出典：交通関係エネルギー要覧（平成13・14年度版））

(エ) 教育面

電車を活かして学習できる仕組みをつくる。具体的には、「ほくほく線」の「ゆめぞら号」が星座を紹介しているほか、電車に乗車することにより、地域性の違いを体験してもらえるようにする。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
活用策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
駅を中心としたまちづくり								
その4								
学習			○	○	○	○		

魅力あるまちづくり（魅力ある駅整備）

まちの玄関口である駅に魅力をつけることにより、魅力のあるまちをつくる。

（ア）個性ある駅舎の整備

駅の所在する地域特性や特徴を活かした駅づくりを行う。

また、駅周辺においても駅の個性と一致した周辺環境整備を行う。

たとえば、谷浜駅であれば、谷浜海水浴場に近く、夏の海水浴、観光客のための谷浜駅といった特徴がある。一方、隣の有間川駅は通学利用の多い、地域住民の移動が中心の駅である。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
活用策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
魅力あるまちづくり								
その1								
個性ある駅舎整備			○	○	○			○

（イ）駅を中心としたまちづくり

既存の観光案内所及び観光登録店など駅を中心にソフト事業が実施されており、これらの有効活用を図るため、一層のPRを行う。

また、駅周辺に地域住民を集めるよう、目的地を駅近隣にして鉄道利用を図るために、駅近隣でイベントを実施する。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
活用策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
魅力あるまちづくり								
その2								
駅を中心としたまちづくり（ソフト）			○	○	○			○

(3) マイレール意識の高揚策

これまで、鉄道は国鉄やＪＲに任せきりで、住民が鉄道に愛着を持ち、支えるという意識が薄かった。今後、ＪＲからの経営分離を視野に入れ、市民のマイレール意識の高揚を図る。

住民の参画

住民が鉄道の運営等に主体的に参加することにより、マイレール意識の高揚を図る。

(ア) 個人や町内会等利用者株主

経営分離後の鉄道運営に関し、意識付けが最も強い株主制度を導入する。

現在、経営分離後の経営基本フレームについては新潟県並行在来線対策協議会で検討されているが、並行在来線には地域住民のマイレールとしての意識が不可欠であるので、経営分離後の鉄道事業に地域住民が出資できるよう検討する。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
マイレール意識の高揚策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
住民の参画								
その1								
個人や町内会等利用者株主			○	○	○	○		

(イ) 地域の住民によるイベント列車・貸切列車

鉄道の利用に住民が主体的に参加するため、地域住民のイベント用企画列車を運行させ、地域の住民と一体となって活動することにより、マイレール意識の高揚及び利用促進を図る。

具体的には、鉄道に乗る子ども向けイベントを実施し、電車の良さを知ってもらう。また、中学生や高校生に向けた電車利用のイベントを検討し、実施することにより、将来の利用につなげる。

あわせて、経営分離後は、貸切列車の運行や住民への列車の貸し出しを積極的に行うことにより、住民の参画を図る。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
マイレール意識の高揚策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
住民の参画								
その2								
地域の住民によるイベント列車			○	○	○	○		

(ウ) サポーター（若者・高齢者）

まちの未来に関心があり、実行力の高い若者や鉄道の利用頻度が高い高齢者にサポーターとなってもらい、鉄道の存続のために積極的に取り組んでもらう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
マイレール意識の高揚策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
住民の参画								
その3								
サポーター（若者・高齢者）			○	○	○	○		

(エ) 鉄道乗車のマナーアップ

誰もが快適に鉄道を利用できるよう、公共空間としての意識を高め、乗車時のマナーアップを図る。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
マイレール意識の高揚策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
住民の参画								
その4								
鉄道乗車のマナーアップ			○	○	○	○		

住民への情報提供

住民へ鉄道情報を提供することにより、鉄道に関心を持ってもらい、自分たちの鉄道であることを認識してもらう。

(ア) 市民に向けた情報発信

市町村が市民に並行在来線の鉄道ダイヤ改正や鉄道に関する情報を提供し、鉄道に関心を持ってもらう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
マイレール意識の高揚策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
住民への情報提供								
その1								
市民に向けた情報発信			○	○	○	○		

(イ) 沿線たよりの発行

並行在来線の沿線の情報について定期的に情報提供し、自分たちの地域と鉄道のかかわりを知ってもらうことを通じて、沿線情報を把握してもらう。

課題解決（対応策）名	関係者					期間		
マイレール意識の高揚策	国	県	市町村	鉄道事業者	市民	短期	中期	長期
プロジェクト名								
住民への情報提供								
その2								
沿線たよりの発行			○	○		○		

(4) 運営支援策

並行在来線運営会社は鉄道事業者として自社の最大限の努力により、経営の安定化を図らなければならない。しかし、長野県しなの鉄道などの事例から鉄道事業者の努力だけでは、経営の安定化は困難であり、JRからの資産譲渡や経営に関する支援策を検討しなければならない。

そこで並行在来線の安定経営のために市民や行政（国、県、市町村）から鉄道会社へどのような支援を行えばよいか、以下の6点の視点で経営分離までに運営支援策の検討を行う。

- 市町村は、地域住民と一体となった利用促進に努める
- 市町村は、地域住民と一体となった活用策を展開する
- 鉄道事業者は、増収・経費削減に最大限努め、経営の安定を図る
- 国・県・市町村は、本提言の利用促進策及び活用策を実施した上での長期収支見込みに基づき、並行在来線が自立経営できる支援策を行う
- 国は、自立経営が可能になるように鉄道資産のJRからの譲渡における財政的優遇措置を講じる
- 県は、並行在来線の存続を図る主体のもと、並行在来線がバスと同様公共交通であることに基づき、バスと同様運行補助金等必要な措置を講じる

(運営支援策の想定例)

- 県・市町村の鉄道会社への出資や補助
- 国・市町村による固定資産税の減免 など

3. 4つの課題解決策の進め方

以下に示したスケジュールと役割分担に基づき課題解決を図っていく。

個別の施策については前項で関係者及び時期を示しているが、ここでは全体の進め方について示す。

(1) スケジュール

並行在来線の経営分離まで10年を残すのみとなったが、まず住民と市が利用促進策と活用策を展開し、マイレール意識の高揚を図るなど鉄道利用者の増加に努める。

さらに、利用者の動向を見据えた上で、経営分離後の並行在来線の長期収支を踏まえ、並行在来線運行鉄道事業者に対する財政支援策を講じていく。

なお、本提言においては、現上越市内の並行在来線について検討したが、平成17年1月1日に予定されている市町村合併に伴う市域の拡大に対し、今回と同様の視点での再検討が必要となる。

スケジュールイメージ

実施時期 プロジェクト区分				新幹線 開業時	経営 分離後
課題解決	プロジェクト	個別プロジェクト	H16～	H25	H25～
利用促進策	利用しやすい駅の整備	バリアフリー化（モビリティステーション）	●		
		各施設までの案内表示	●		
		アクセスルートの整備			
		高田駅西口整備・黒井駅南口整備			●
		各駅で朝市を実施	●	●	●
	利用しやすい電車	ダイヤ			
		スピードアップ化			
		ダイヤ改正	●	●	
		増発	●		
		本数を増やす	●		
		乗る人が多い通学時間帯の増発	●		
		乗る人に不便を感じさせないダイヤ	●	●	●
		終電車を遅く	●		
		列車の接続時間を短縮	●		
		上越・中越（・下越）と連携したダイヤ	●		
		定時刻出発化（パターンダイヤの導入）	●		

第4章 課題解決に向けたプロジェクト

実施時期 プロジェクト区分				新幹線開業時	経営分離後
課題解決	プロジェクト	個別プロジェクト	H16～	H25	H25～
利用促進策	利用しやすい電車	上越駅（仮称）及び糸魚川駅における新幹線及び JR との接続列車の運行・調整			●
		車両の改善			
		小さい子ども連れにやさしい車両	●	●	●
		バリアフリー対策	●	●	●
		高齢者専用、若者専用車両を設定	●	●	●
		運賃の見直し			
		各種割引乗車券（定期）発行	●	●	●
		家族割引切符	●	●	●
		イールドマネジメント ⁶ 導入			●
		貨物輸送の利用促進	●	●	●
	他の輸送機関との連携（車社会との共存）	バスとの連携			
		駅のバスターミナル整備	●		
		鉄道・バスダイヤの連携（乗換え円滑化、乗換え時間の短縮化）	●	●	●
		鉄道利用者向け駐車場整備	●		
		鉄道利用者向け駐輪場整備	●		
	鉄道を PR	利用促進イベント			
		ノーカーデーの実施	●	●	●
		子ども向けに電車乗車イベント	●	●	●
		小・中学生、高校生対象の電車を使ったイベント	●	●	●
		誰でも気軽に使える電車の運行	●	●	●
		鉄道・バスツアー	●	●	●
		鉄道の良さを知ってもらうキャンペーン			
		健康面から休日鉄道利用を勧める	●	●	●
		鉄道の特性（確実性、定時性）をアピール	●	●	●
活用策	駅を中心としたまちづくり	観光			
		鉄道駅（公共交通機関）を意識した観光開発（まちづくり）	●	●	●
		駅からの散歩コースのマップづくり	●		
		駅から観光施設を循環するバスの運行	●	●	●
		観光振興のために鉄道を利用	●	●	●
		上越市百選選定	●		
		環境	●	●	●
		健康	●	●	●
		学習			
		電車に乗りながら学習できる仕組み	●		
		駅周辺整備			

⁶イールドマネジメント：運送機関の座席または宿泊機関の部屋の販売等に関し、収益を最大にするため、需要の動向等に応じ最適の価格設定を行うこと。

第4章 課題解決に向けたプロジェクト

実施時期 プロジェクト区分				新幹線 開業時	経営分離 後
課題解決	プロジェクト	個別プロジェクト	H16～	H25	H25～
活用策	駅を中心としたまちづくり	駅のパスターミナル、駐車場、駐輪場の整備	●		
		商店や住宅の整備	●	●	●
		公共施設の配置	●	●	●
	魅力あるまちづくり（魅力ある駅整備）	個性ある駅舎整備	●		
		駅を中心にしたまちづくり			
		観光案内、おもてなし事業のPR	●		
		駅の近くでのイベントの実施	●	●	●
マイレール意識の高揚策	住民の参画	個人や町内会等利用者株主		●	
		地域の住民によるイベント列車	●	●	●
		サポーター（若者・高齢者）の設置	●	●	●
		鉄道乗車のマナーアップ	●	●	●
	住民への情報提供	市民に向けた情報発信	●	●	●
		沿線便りの発行	●	●	●
運営支援策		鉄道会社への補助や出資			●
		固定資産税の減免や免除			●

(2) 役割分担

●：主体的役割を担うもの

○：関係者

問題解決（対応策）	利用促進策				活用策		マイレール意識の高揚策		運営支援策
プロジェクト	利用しやすい駅の整備	利用しやすい電車	他の輸送機関との連携	鉄道をPR	駅を中心としたまちづくり	魅力あるまちづくり	住民の参画	住民への情報提供	
住民 ● プロジェクトに対する市民ニーズの提供 ● 利用促進策や活用策に積極的な参加 ● 活用策やマイレール意識高揚策実施に主体的に参加する ● 地域に直接関することは主体的にプロジェクトに参加する	○	○	○	●	●	●	●	●	○
バス事業者 ● 鉄道と連携した運行を心掛ける			●		●				
鉄道事業者 ● 利用促進策においてダイヤ改正など鉄道の輸送手段の機能の高度化の積極的な導入 ● 活用策実施時など各種鉄道施設を利用するプロジェクトに対する協力	●	●	●	○	○	○	○	○	○
市町村 ● 利用促進策の先導 ● 関係機関との調整（窓口部署一元化） ● 並行在来線が維持できるよう財政支援 ● 公共交通総合計画策定	●	○	●	●	●	●	●	●	●
県 ● 並行在来線が維持できるよう財政支援	○								●
国 ● 並行在来線が維持できるよう財政支援		○							●